

令和5年2月17日

各位

公益財団法人 大山健康財団
理事長 神谷 茂

令和4年度「第49回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第5回竹内勤記念国際賞」受賞者並びに「第49回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど令和4年度の「第49回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第5回竹内勤記念国際賞」受賞者各1名、並びに「第49回学術研究助成金」受贈者10名を下記の通り決定しました。

「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

「竹内勤記念国際賞」は、故竹内勤前理事長の遺徳を永く記念するため、平成30年度に新しく創設されたもので、発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手の研究者に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、真菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、贈呈式は令和5年3月14日（火）午前11時30分から霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館（東京都千代田区霞が関3-2-1）で各賞並びに助成金併せて執り行います。

記

令和4年度「第49回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 ^{なかさ} 仲佐 ^{たもつ} 保

（認定）特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会 共同代表理事
医師 公衆衛生学修士（満68歳）

【業績内容】

仲佐 保氏は、医学部卒業後、国立病院医療センターの外科医としてのカンボジア難民医療援助を皮切りに、国際緊急援助隊の設立に深く関与されるとともに、当時のNGO シェアの一員としてエチオピア飢餓被災民援助では、飢餓の中、感染症に苦しむ被災民の診療に多大の貢献をされました。

1986年には、国立病院医療センターに創設された国際医療協力部の一員として、ボリビア、パキスタン、ホンジュラスにJICA技術協力プロジェクト専門家として長期に派遣され、途上国に

おける地域医療を通じて住民の健康に貢献されました

また、国際医療協力を目指す日本人の育成やアフリカの感染症対策、アジアの地域保健医療プロジェクトの運営に従事され、2018年にはコンゴ民主共和国の保健省次官顧問として派遣され、エボラ出血熱流行対策に貢献されました。同時にNPO シェアの一員として、タイおよびアフリカのHIV/エイズ対策プロジェクトへのアドバイスをされるなど官民を問わず日本の国際医療協力の基礎づくりに貢献され、40年近く現場の実践を基にこの分野をリードして来られました。

令和4年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】 神白 麻衣子

特定非営利活動法人ジャパンハート 副理事長
ジャパンハートカンボジアこども医療センター 院長
医師（総合内科専門医・プライマリケア認定医・厚労省認定臨床研修指導医）（満48歳）

【業績内容】

神白麻衣子氏は、医療が届かない場所に医療を届ける事を強く信念として志され、学生時代から積極的に在日外国人医療相談会や野宿者支援ボランティア活動に参加されました。

さらに国際医療協力を志され、千葉大学医学部を卒業後、医療人材や設備が十分でない沖縄の離島・へき地医療やプライマリケア・救急医療を学ばれる傍ら他団体のフィリピンでの短期医療ミッションにも参加されました。

また、勤務されていた病院を退職され、無償のボランティア・スタッフ医師として2004年に吉岡秀人氏が設立された国際医療奉仕団「ジャパンハート」(現 特定非営利活動法人ジャパンハート)の活動に参加されました。ジャパンハートはミャンマーの「ワッチェ慈善病院」で医療活動を開始し、現在、日本国内はもとよりカンボジア、ラオスで活動を展開しています。神白氏の決して十分とは言えない人員と設備の中、様々な苦勞をいとわず14年もの間継続してミャンマー、カンボジア、ラオスで患者の命と真摯に向き合う姿は、多くの医師、看護師を含むスタッフ、患者とその家族に勇気と希望を与えています。

さらに、これまでに約20人のカンボジア人医師を育成し、自身が持つ医療技術に加えて優れたホスピタリティを伝えるなど医療従事者の育成にも尽力されています。

令和4年度「第5回竹内勤記念国際賞」

(敬称略)

【受賞者】 吉岡 浩太

長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 准教授（博士前期課程専任教員）
日本顧みられない熱帯病アライアンス 副事務局長
公衆衛生博士（ハーバード公衆衛生大学院）（満41歳）

【業績内容】

吉岡浩太氏は、長年、マラリアに次いで危険な熱帯病といわれる中南米特有のシャーガ

ス病を媒介するサシガメの駆除対策に多大な貢献をされました

2010年～2014年、ニカラグアに JICA シャーガス病対策プロジェクト専門家として派遣され、ニカラグア保健省の了解のもと、現地調査チームを編成し、サシガメの生息状況の把握、生息が確認された家屋一軒一軒への殺虫剤散布等の対策をされました

しかし、殺虫剤は一時的にサシガメを駆除するには効果的であるものの永続的なものではなく、重要なのは住民がサシガメの脅威を理解し、継続的に監視するシステムを作ることが重要であることから、住民による監視システムを提案され、対象の 5 県 49 市でシステムを導入するための研修を実施されました。この監視システムは、サシガメを発見した住民が最寄りの保健所に届け出て、その後、保健所のスタッフがその家を訪問し、啓発・殺虫剤散布などの対応を行うというサイクルの確立を目指すものです。

プロジェクトでは、さらにサシガメがとりわけ入り込みやすい壁のひび割れの修繕にも取り組まれ、こうした作業においても住民自身のイニシアチブを高めるように指導されました。

ひび割れの修繕により、住民の感染リスクは大きく低下することになり、こうした研究成果は多くの欧米専門誌に発表されています。

令和 4 年度「第 49 回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	研 究 課 題	助成額 (円)	選考分野
いはら そうざぶろう 井原 聡 三 郎	東京大学医学部附属病院 消化器内科 助教	ジアルジア症に対する予防接種の開発に向けた検討	1 0 0 万	寄生虫学
いわさき たかし 岩崎 崇	鳥取大学農学部 准教授	細胞壁透過ペプチドを利用したオーダーメイド型細菌叢制御技術の開発	1 0 0 万	細菌学
うわみの よしふみ 上 蓑 義 典	慶應義塾大学医学部 臨床検査医学 専任講師	カルバペネム耐性緑膿菌の DBO 系 β ラクタマーゼ阻害剤配合 β ラクタム薬耐性に関する探索的研究	1 0 0 万	細菌学
かわしま あきら 川島 晃	帝京大学医療技術学部 臨床検査学科 研究院	脂質合成経路を標的としたハンセン病の新たな感染症治療戦略の創出	1 0 0 万	細菌学
きんじょう たけし 金城 武士	琉球大学大学院 医学研究科 助教	ナノポアシーケンスと MLST 法による非結核性抗酸菌の高精度迅速同定と薬剤感受性予測システムの開発	1 0 0 万	細菌学
さかもと ひろかず 坂本 寛和	千葉大学大学院 医学研究院 特任助教	マラリア原虫類のオルガネラ恒常性に果たすオートファジー関連因子 ATG8 の機能解析	1 0 0 万	寄生虫学
しもの たかき 下 埜 敬 紀	関西医科大学医学部 衛生・公衆衛生学講座 講師	発展途上国で使用可能な尿を検体とした活動性結核の新規スクリーニングシステムの開発	1 0 0 万	細菌学

つくいくみこ 津久井久美子	国立感染症研究所 寄生動物部 主任研究官	腸管寄生性原虫赤痢アメーバ trogocytic tunnel に局在する 分子のインタラクトーム解析	100万	寄生虫学
はねだ たけし 羽田 健	北里大学薬学部 微生物学教室 講師	サルモネラのマクロファージ 細胞死誘導機構の解明と薬剤 耐性菌治療への応用	100万	細菌学
ひよし ひろたか 日吉 大貴	長崎大学熱帯医学研究所 細菌学分野 准教授	病原体感染細胞と非感染細胞 を区別したトランスクリプト ーム解析ができる scRNA-seq の研究開発	100万	細菌学
			1,000万	

以上

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局
〒132-0035 東京都江戸川区平井5-29-4-202
電話 03-3614-7762
E-mail : ohfin@nifty.com